

# マンガン系合金鉄

## 国際市況軟調、欧州など急落

### 中国の影響鮮明、需給緩和が波及

製鋼副原料に使うマンガン系合金鉄の国際市況が軟調だ。最大の需要国、中国で鉄鋼メーカーの購入意欲が低調なため、10月で急速に値下がりした。一方、ステンレス・特殊鋼副原料のモリブデンは、中国市場の影響を受けやすいものの、同国内での原料供給制約もあって下止まりの動きを見せる。もともと中国の影響を受けやすい合金鉄マーケットだが、中国要因による世界市場への影響が一段と鮮明になっている。

ライヤー、合金鉄メーカーの採算は急速に悪化している。鋳石の相場、5ドルを下回ると、サプライヤーによって採算割れの状態とみられる。合金鉄メーカーも同様で、足元の価格水準では「早晩、設備休止などによる減産が出てくる可能性がある」（市場関係者）。

中国市場を中心に鉄鋼向け需要が盛り上がり、足元は22ドル後半のレベルまで戻している。ただ供給者の採算割れが鮮明になってくれば、価格底入れにつながる可能性は十分にある。

**モリブデンは高止まり**  
ステンレス・特殊鋼副原料のモリブデンは下止まりの動きを見せている。三酸化モリブデンの国際市況は5月以降、20〜22ドル（純分価格）のボックス圏で推移。4月時点では20ドルを下回っていたが、足元は22ドル後半のレベルまで戻している。

モリブデンの国際市況も中国の影響を受けやすく、鉄鋼向け需要の伸び悩みは下げ要因となるが、マンガンのような違いは特異な動きとなっている。

中国では、三酸化モリブデンの原料となる二硫化モリブデンを中国国内で調達するケースが多い。原料サプライヤーが供給を制限していることで、原料需給のタイト感が三酸化モリブデンの価格を支えている形だ。

このため、先行きに

については「中国国内の高止まりが続く限り、国際市況も下がりなく展開になる」（アドバンストマテリアルジャパンの松村洋・合金鉄部部長）との見方が支配的だ。

マンガン系合金鉄の欧州市場価格は現在、汎用品の高炭素フェロマンガンを1ト当たり1030〜40ドル。電炉メーカー向けが多いシリコマンガンを1020ドル近辺で推移している。約1カ月前の水準に比べ高炭素品は半値、シリコマンガンは3割ほど安い。

中国生産が多い金属マンガンを軟調だ。足元は2030ドル前後で推移しており、同じく1カ月前に比べ25%程度下落した。

マンガン系合金鉄の

軟調推移は、鉄鋼向け需要が盛り上がり、不足中、原料となるマンガンの価格が右肩下がりしているためだ。中国向けマンガンの8月積み価格は、オーストラリア産高品質鋳石のオフアース（希望価格）ベースで4.7ドル（純分価格、着ベース）。直近3カ月で4割方値下がりした。

中国のマンガン鋳石港頭在庫は640万〜650万トのレベルで高止まりしており、実需が増えなくても在庫調整で吸収できる状況。これが価格を抑える最大の要因となっている。

一方、マンガン系の鋳石・合金鉄の価格下落によって、鋳石サブ

